

健康と光線

温熱療法としての作用

宇都宮義真が昭和七年（一九三二年）に東京光線療法研究所を創業してから、七十年に当たる平成十五年の新春を迎えることができました。これも偏にサナモア光線療法を、愛用頂いている皆様のおかげによるものと、心より厚くお礼申し上げます。

本紙は、宇都宮義真が「光線」の名で昭和九年一月に創刊しましたが、昭和十年に「光と熱」に改め、第二次世界大戦による休刊をはさんで、昭和二十五年に再刊した際に「健康と光線」にしたのです。このように一時期「光と熱」と題して発刊されたのは、サナモア光線療法に温熱療法としての作用があるからです。この温熱療法の効能に関して、近年、さまざまな新事実が解明されていますが、その中から熱ショック蛋白質について

記載します。

サナモアの深部温熱作用

サナモアにはビタミンDを生成する作用に代表される光化学作用に加え、透過力がある輻射線（主に赤外線）の輻射熱で身体を深部から温める作用があり、気持ち良く安全な温熱療法としてご利用いただいております。

この深部温熱作用の効果として以前より知られているのは、照射部を芯から温めることで血液やリンパの流れが良くなるため、新陳代謝を促進し、老廃物を排除し、即効性の優れた鎮痛効果や筋弛緩効果を示すことです。

しかし最近になって、温熱刺激が種々のストレスから生体を防衛する、熱ショック蛋白質と呼ばれる物質を産出することが明らかにされました。

熱ショック蛋白質の発見

生物はさまざまな物理化学的

発行所

〒153-0063

東京都目黒区目黒

4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行

会費年500円

電話 東京 (03)

3793-5281

3712-5322

サナモア光線療法の 温熱作用について—その1—

—熱ショック蛋白質の産出と生体防御効果—

サナモア光線協会

サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

熱ショック蛋白質の 生体防御作用

熱ショック蛋白質には、ストレス反応による細胞傷害から細胞を保護するだけでなく、その後に加えられた強い傷害性のストレス、例えば致死的なストレスから細胞を保護する防御作用があります。この点についての

研究から、今の医学で用いられていて患者に負担を強いている治療法の副作用を予防する効果についての報告を取り上げます。

一般的に用いられている消炎鎮痛剤（非ステロイド性抗炎症薬）には、胃粘膜傷害や胃潰瘍

のような副作用があります。この副作用は薬が発痛因子であり胃粘膜保護因子であるプロスタグランジンの産生を抑制するために起るので、特に高齢者で

高率に認めますが、熱ショック蛋白質はこの副作用を抑えます。

また手術や癌の治療に用いられる抗癌剤による化学療法や放射線療法のような侵襲的治療による副作用が、サナモアを治療前に使用したら、軽く済み、その後の経過が良かったという経験は良く聞きますが、熱ショック蛋白質はこのような侵襲に対する耐性を高め、治療に伴う副作用を抑制すると報告されています。

これらの報告は、サナモア光線療法が副作用を抑制する効果に熱ショック蛋白質の産出が関わっていることを示唆しており、サナモア光線療法の有効性を裏付けています。

迎春

平成十五年 元旦

(株)東京光線療法研究所
サナモア光線治療院

(六日より営業します)

一病息災 一病息災

ウイルス肝炎(B型・C型)

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

病気の解説

肝炎を起こす主な原因ウイルスは、最近までA型、B型、非A非B型と分類されていましたが、非A非B型は、一九八九年に遺伝子が解明され、C型肝炎ウイルスと命名されました。現在、わが国には約二百万人のC型肝炎ウイルスの感染者(キャリア)がいると推定されていますが、C型肝炎の蔓延に対する国と厚生省の責任を問う訴訟が起こされており、今後早期の対応が望まれます。

肝炎は臨床経過から分類する

と、大きく急性肝炎と慢性肝炎に分けられますが、急性肝炎は一過性で完治が望めるのに対し、慢性肝炎は肝炎ウイルスが持続感染した状態で、長い年月をかけた徐々に進行し肝硬変となりま

症 例：48歳、女性

主 訴：肝機能障害

起始・経過：以前から、健診時の血液検査にて肝機能障害を指摘されていたが放置していた。数年前に献血を行った際、はじめて日赤よりC型肝炎に罹患しているとの通知を受けたが、全身倦怠感などの自覚症状は認められず近医で経過観察されていた。今回、知人に肝庇護目的にて光線療法を勧められたため来院した。

治 療：左側臥位にて45分、5灯照射
腹部(BD)、背部(BD)、後頸部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)

経 過：在宅での光線治療をほぼ毎日続けながら、月に1、2回の頻度で全身照射を開始したところ、血液検査による肝機能の数値も安定し、以前に比べるとかぜもひきにくく体調良好に経過している。

で、キャリアに移行後、大多数が十代後半から三十代にかけて肝炎を発症し、鎮静化後一〇、二〇%の例で肝炎が持続し、早期に慢性肝炎から肝硬変・肝細胞癌へと進展します。これに対しC型肝炎では、多くのC型肝炎ウイルス感染が、衛生環境の悪い時の売血、輸血、注射などの医療行為、覚醒剤の使用、刺青などにより生じたと考えられています。急性C型肝炎は、自覚症状が軽く、血液検査による肝機能異常も軽度なことが多いのですが、感染後の慢性化率はきわめて高く、とくに成人での

感染で高率にキャリア化します。また慢性C型肝炎の約三三%は二十年以上以内に肝硬変に進展し、三三%は肝硬変に進展しないか、進展するとしても五十年以上の年月を必要とすると推測されています。

病気と光線療法

慢性肝炎の治療は、基本的に飲酒、肥満、過労を避け、適度の運動と適正な食事を心掛けるとともに、身体を休め肝臓への十分な血流を確保することが重要です。元来、肝臓は人体の臓器の中で最も再生力に富む臓器であり、外科手術で四分の三程度切除しても数か月で元通りに回復します。ですから、少しでも肝臓への血流を増加させることが大切で、サナモア光線療法により、肝臓への血液循環を高めることは、直接的に肝細胞の再生を助けることにつながるのです。ただし、一部の症例で光線療法を開始した際、陽性反応として、血液検査にて肝機能を表す数値の軽度上昇を認めることがあります。光線療法の継続により改善しますのであせらずに経過を見ることが必要です。

第七期 サナモア光線治療師 養成講座を東京にて開講

前号でお知らせした第七期サナモア光線治療師養成講座を、七名の参加者を迎え、昨年十月



vol.12

サ/ナ/モ/ア/便/り



宇都宮 正範



第十二回「光と熱研究会」のお知らせ

医療に関連した話題の講演や治療例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般のご愛用者の方も是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

日時：一月十八日(土)午後二時
場所：サナモア光線治療院
三階会議室

に東京において開講しました。今回、治療師認定を受けられた方々をご紹介します(写真右)。治療師認定者

石田吉賢(大阪府)、坂口雅代(福岡県)、岩村春夫(福島県)、榎藤一米(福岡県)、山本清治(愛知県)、菅原良夫(岩手県)、柳喜久子(東京都)以上敬称略。



第七期養成講座受講者

治/療/院/紹/介

このコーナーでは、新規に光線治療院を開業された先生方や、既に開業されてご活躍中の先生方を紹介させて頂いております。

サナモア光線

眞(まこと) 治療室

(写真左下)

(平成十四年七月二十四日開院)

電話：〇九一五二一〇〇八

住所：福岡市中央区薬院三十一

四二一五〇五

交通：西鉄大牟田線薬院駅下車

徒歩五分または西鉄バス

薬院大通り下車徒歩三分

院長：副島眞紀子先生

一言：私とサナモア光線療法との

出会いは三十数年前に

さかのぼりますが、今は

亡き前田ミサ先生(育美

健康光線療研)から色々

な事を学びました。現在

はお嬢様の山崎いく子先

生のご指導を受けながら

治療にあたっております

が、患者さんから頂く感

謝の言葉一言一言が私に

とって励みとなり、一人

でも多くの方に健康になっ

てもらいたいと切に願う



副島眞紀子先生

次第です。治療院は、誠意をもって治療にあたるという意味を込めて「眞」治療室と命名致しましたが、これからも、初心を忘れず、病気で困ってい

東京光線治療院

(海渡一二三先生)

移転のお知らせ

東京光線治療院が昨年十二月に移転となりました。新しい治療院は武蔵小杉駅から徒歩二分、新丸子駅から徒歩三分です。

新住所：川崎市中区新丸子町

九一一番地一七

武蔵小杉マンション

一〇二号室

電話：〇四四一七二一五〇六七

FAX：〇四四一七二一七四五二

(電話、FAXは変わりません)

募集

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

る患者さんの希望の光となるべく邁進したいと思っております。

第14回

日本療術学会から

福岡県福岡市・博多全日空ホテル
平成十四年十一月十七日、十八日

シンポジウム

腰椎損傷からくる
下肢及び
内臓への影響全療財団光線部門
代表世話人 宇都宮光明

腰椎損傷の

原因と予後

腰椎損傷は、転落、事故等の外傷により、腰椎に骨折や脱臼を起こした場合の病名であるが、腰椎のみの損傷で患部周辺に強い痛みを起す場合と、腰椎が内包する脊髄が損傷される脊髄損傷で脊髄神経を毀損する場合

があり、後者で下肢及び内臓に影響がでる。

腰椎損傷で脊髄損傷を起し脊髄神経が毀損された場合、完全麻痺から不完全麻痺までさまざまで、予後に影響する。すなわち損傷部以下の脊髄が急性期病変で麻痺する脊髄ショックから、数日から数週間て自然に回復する回復期を過ぎてても回復せず、症状が後遺症として固定化する慢性期に移行すると、回復には時間がかかり、場合によっては望めないこともある。そのため精神面のケアに併せて、機能を補うためのリハビリと二次的合併症、殊に尿路感染症と床ずれ(褥瘡)の予防に万全を期す必要がある。

腰椎損傷の主症状

腰椎部は支持組織が強くで可動性に富み、頸椎部や胸椎部に比べ脊柱管は広く、脊髄神経は第二腰椎で馬尾神経になるため、腰椎損傷は全脊髄損傷の5%以下で、脊髄ショックの回復率も高く、両下肢の完全麻痺を伴う

ことは少なく、神経根症状に止まることが多い。すなわち脊髄損傷を伴う腰椎損傷の主症状は、下肢の放散痛、しびれ、知覚障害、筋力低下、歩行困難や排尿障害と便秘のような膀胱直腸障害が主体となる。

腰椎損傷の光線療法

腰椎損傷の光線療法は、主に患者が後遺症として訴える症状が対象になるが、病院の治療に並行して行うことで期待できる効果は、

(1)腰椎損傷に伴う腰部の痛みや神経障害を軽減し、リハビリで起こす誤用症候群を改善することによって、リハビリに取り組む意欲を増す。

(2)ホメオスタシス(生体恒常性)維持機構を調整し、個体に備わった治癒力(抵抗力)を高めて、二次的合併症と廃用症候群を予防する。

ことであり、自立を助けQOL(生活の質)を改善することに資することである。

光線療法の治療法

光線治療器一台で行う標準的な使用法は、基本照射として、足裏、足甲、ふくらはぎ、膝前後、腰、腹、背などに各一〇分程度照射し、病状に対応して患部へ二〇―三〇分前後照射するが、治療器の台数を増やし、二台で二灯照射、四台から五台で多灯照射を行うこともある。また光線の温熱作用を利用するため、覆いをした空間内で照射するなど照射法に工夫改良がなされている。

ちなみに演者の治療院では、閉鎖した空間内で多灯照射を行っているが、光線の光化学作用と温熱作用の相乗効果を利用することを目的にした治療法である。

光線療法を行うことで

期待できる効果

一、症状の改善

腰椎損傷に起因する腰痛や神経根症状に対する鎮痛効果、脊髄損傷に伴う神経麻痺や膀胱直

腸障害の神経機能の回復、リハビリで起こす誤用症候群の症状の改善。

二、二次的合併症(尿路感染症、褥瘡)の予防、治療

免疫応答の調節、免疫力の強化、血液循環と肉芽形成の促進。三、廃用症候群の予防と一般状態の改善

関節拘縮の予防、筋緊張の弛緩、筋力の増強により、関節可動域の確保、廃用性筋萎縮の予防。心肺機能、消化器系機能、うつ状態の改善。

四、ビタミンDの生成

カルシウム代謝を調節し、骨粗鬆症、ビタミンD反応性ミオパチーの予防。

五、温熱療法としての効果

温熱刺激により、生体防御作用のある熱ショック蛋白質の合成。

おわりに

腰椎損傷に脊髄損傷を合併すると、ADL(日常生活動作)が著しく阻害される。この際的光線療法は、日常生活に可及的速やかに復帰する手伝いをすることに尽きる。

第14回

日本療術学会から

福岡県福岡市・博多全日空ホテル
平成十四年十二月十七日、十八日インスリン依存型
糖尿病の合併症の
治療経験

社団法人 神奈川県療術師会

海渡 一二三

はじめに

インスリン依存型糖尿病はインスリンを分泌する膵臓のランゲルハンス島β細胞の機能が廃絶して発症するため、インスリンで血糖値をコントロールする治療が欠かせない。そのため入院加療中の20歳の男子学生が、病院の医師から症状の改善に光線療法を併用することを勧めら

れて来院したので、その治療経験について報告する。

症例

〔患者〕 20歳 男性 学生

〔初診日〕 平成11年8月27日

〔主訴〕 来院時、失明状態の視力障害、強い胸やけと嘔吐を訴えており、糖尿病性白内障、糖尿病性自律神経機能障害による逆流性食道炎と診断されていた。また患者は血糖値がコントロールされ、白内障の手術で視力を回復して退院したが、その五ヶ月後に左下肢に激痛を訴えるようになり、糖尿病性神経障害に起因する神経痛と診断された。

〔既往症〕 約一年前にインスリン依存型糖尿病と診断されたことを除き、特記事項はない。

〔家族歴〕 家系に糖尿病はない。

〔現病歴および初診時所見〕

入院三ヶ月後に医師から糖尿病に由来する症状の改善、合併症予防のために光線療法を勧められて来院した。当院初診時には失明状態で一人では歩行でき

ず、母親と病院職員が付き添い手を引いて来たが、痩せこけて衰弱しており、顔面蒼白で生気がなく、強い冷え性があり、食事の度に何時も吐くのがつらいと訴えていた。

治療

全身照射と症状に対応した患部照射を三台または四台の治療器を同時に用いて多灯照射した。カーボンは病状に応じてAA、BD、ABを使い、側臥位で目を閉じて顔、腰、臀、膝に各30分、次に腹30分の間に後頭部、膝裏に10分、足裏に20分、仰臥位で左耳、右頸部、左横腹、右膝に10分、右耳、左頸部、右横腹、左膝に10分照射した。

治療経過

患者は病院から毎日通院したが、治療を始めて二ヶ月後に胸やけはなくなり吐かなくなった。しかし視力は改善しないため、三ヶ月後に医師に白内障の手術を打診したところ、糖尿病はコントロールされ手術に支障はないが、糖尿病性網膜症を併発し

ていると視力回復は保証できないと言われた。そのため母親が手術を渋ったが、片方の手術をして視力の状態を診ることにした。その結果、視力が回復したので三ヶ月後に残りの目の手術を行い、両眼視力を回復した。その頃には冷え性も改善しており、術後一ヶ月で元気に退院した。

それから光線療法は続けていたが、退院五ヶ月後に左下肢にちぎれるような痛みを訴え、糖尿病性神経障害による神経痛と診断された。そのためABカーボンで追加照射したが、九ヶ月後には改善し、その後、再発していない。

現在、病院の治療と光線療法を続けているが、全身状態は良好に推移しており、母親は息子が見違えるほどたくましい身体になって学生生活を送っていることを喜んでいる。

考案ならびに結語

糖尿病はインスリン依存型糖尿病、インスリン非依存型糖尿病、その他の二次性糖尿病に分

けられるが、今回報告したインスリン依存型糖尿病は自己免疫の機序によりインスリンを分泌する膵臓のβ細胞が破壊されて起こすとされており、痩せ型の子供や若年者に多く、インスリンで血糖値をコントロールすることが不可欠である。

本例に光線療法を行って最初に認めた変化は、糖尿病性自律神経機能障害によると言われた逆流性食道炎による胸やけや嘔吐が改善したことで、患者は生気を取り戻し、その後の治療に好影響を与えたことである。また視力は白内障の手術で回復して元気に退院したが、その五ヶ月後に左下肢に糖尿病性神経障害による激痛を訴え、糖尿病合併症を予防することの難しさを感じたが、神経痛は九ヶ月間の治療で治まった。

糖尿病は多彩な合併症を起こす病気であり、治療の目標は合併症の予防、進展の抑制である。光線療法がその助けになることを願い、経過観察を続ける所存である。

治験例報告

痛風発作の再発を

光線療法で予防

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

症例 59歳 男性 自営業
症状 以前、痛風の治療を受けた既往があり、同様の痛みを再び第一趾(足の親指)の付け根に認めたため、かかりつけの医院を受診。血液中の尿酸値が10・2と高値を示しており痛風の再発と診断された。痛みは消炎鎮痛剤の内服にて軽減したが、患者は七年前から高血圧に対し降圧剤の投与を受けており、定期的に医師の診察を受けていたにもかかわらず、痛風が再発したことを不安に思い従兄に相談したところ、サナモア光線療法を紹介され来所した。

療法経過 Bカーボンにて未だ若干痛みの残る第一趾の付け根を表と裏から各20分照射。その後、Aカーボンで腹部10分、腰10分、背10分、足裏10分、膝10分をそれぞれ照射した。患者には、痛風の治療においては痛

治験例報告

変形性腰椎症で

医師から手術を勧められたが

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子氏報告

症例 70歳 男性

症状 数日前から急に立ち上がるのが困難となったため、二か所の大病院で精密検査を受けたところ、第三、第四腰椎に変形が認められ変形性腰椎症と診断された。両病院の医師からは現状で治療法は手術しかない」と説明されたが、どうしても手術を受けられなかったため、光

必ず痛風発作は起こらなくなる」と説明した。在宅治療を開始してから二か月後の血液検査で尿酸値は6・4と正常値まで低下し、その後も医師に指示された食事療法と運動療法を続けながら、光線療法を毎日欠かさずに続けたところ、開始から2年半経過した現在に至るまで、痛風発作は全くおこらず尿酸値も安定している。

(TEL 078-331-1358)

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともともとご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法研究所

治験例報告

手根管症候群による手指のしびれを治療

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

症例 53歳 女性 主婦
症状 最近、右手関節の痛みと手指のしびれを自覚したため近医を受診したところ、右手首で

けた。さらに今後は、BCカーボンを主に時々BDカーボンに変えて、腰をしつかり照射することを繰り返して指示した。毎日腰に六時間前後の照射を続け、六か月後には、ほぼ以前と同程

度の日常生活をおくれる程までに改善し、光線療法の有り難さをつくづく感じましたと喜びの報告を頂いた。

(TEL 092-581-0394 五八一〇三九 五七二一五七三)

神経の障害が起こっており、手根管症候群と診断された。医師からは、しばらく経過を見て改善(7ページへ続く)

(6ページから続く)

善しない場合は手術をしましよ
うと勧められたが、患者は手術
以外の治療法がないかと友人に
相談したところ、サナモア光線
療法を紹介されたため来所した。
初診時、手関節から手指にかけ
て腫れはなかったが、手関節を
動かした際に痛みを認め、静止
した状態でも指先までしびれを
認めた。

療法経過 最初は、A Bカーボ
ンを使用し、側臥位にて治療を

治
験
例
報
告

少年野球でエースの野球肘が治った

埼玉県 あさか治療院

麻生 律子氏報告

症例 11歳 男児
症状 小学校二年生より野球を
続けてきたが、四か月程前、投
球中に突然右肘に痛みを認めた
ため、近医整形外科にてレント
ゲン検査を受けたところ、肘頭
の剥離骨折が疑われ一か月半腕
を固定した。その後、固定は外
れりハビリを続けたが肘関節は
120度程度しか伸展できず、
接骨院にも通ったが改善しない
ため来院した。

開始。顔面、腰部、膝を10分同時
照射。次に、後頭部、腹部、足裏
に10分同時照射。さらに仰臥位
としてから、左頸部、右肩、左側
腹部、右膝に10分照射後、右頸部、
左肩、右側腹部、左膝に10分照射
した。最後に右腋窩部、右肘関
節、右手の表裏に15分の照射を
施行した。初回治療にて症状は
軽くなったと言っていたが、連
日治療を続けたところ、九日間
の治療で症状はほぼ軽快した。
(TEL 〇四四一七三二五〇六七)

療法経過 カーボンは、A B、
B B、B Dの組み合わせを適宜
用い、左側臥位にてルーフ式全
身照射を施行。始めに、腹部、
膝、右肩甲骨部、腰部、足裏を
40分照射し、全身の筋肉の緊張
を和らげてから、右肘関節を前
後からはさみ込むように、20分
間部分照射した。初回の治療終
了時に患者は治療の効果を確信
したかのよう喜び帰宅したが、
二回の治療で肘関節は以前より

伸展可能となった。さらに治療
を継続したところ、五回終了時
にはレントゲン検査にて改善が
確認され、八回の治療終了時には完

治
験
例
報
告肩関節周囲炎(五十肩)に
対する光線療法

西東京市 ひばりヶ丘治療院

野島 豊子氏報告

症例 75歳 女性 主婦

症状 数か月前から徐々に左上
肢の挙上が困難となり、夜間睡
眠中にも左肩の痛みで覚醒する
ことが頻繁となってきたため、
近医整形外科にてレントゲン検
査を受けたところ、肩関節周囲
炎いわゆる五十肩で、肩関節周
囲には石灰化が認められると説
明された。症状はますます強く
なり、肩関節を動かすと飛び上
がるほどの痛みを生じ悩んでい
たが、当院の体験治療を知り来
所した。

療法経過 右側臥位にてルーフ
式全身照射を施行。左肩後面
(B B)、腰部(B D)、腹部
(A D)、膝(A B)、足裏(A
B)を同時に40分照射。次に仰

全に肘関節が伸展可能となり、野球
ができるまでに回復した。
(TEL 〇四八四七四一四七八二)

臥位として、左肩外側(B B)、
腋窩(A B)を15分照射。さら
に座位にて左肩を前後からはさ

全自動光線治療器
はつらつさんと
ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤
を完全燃焼させることで最も
効果のあるスペクトルを含む
光線を放射するように、正面
からカーボンをぶつける正面
発光式を採用しています。そ
のため手動式のサナモア7号
器・8号器では照射時間が十
分強で切れ、長時間の照射に
はご不便をお掛けしてしまし
た。この点を改良したのが全

むように15分照射した。患者に
は痛みのために関節を動かさな
いと関節が拘縮してしまい、肩
関節を自由に動かすことができ
なくなってしまうので、自宅で
はなるべく痛みを感じる手前ま
での範囲で肩関節を動かすよう
に指導した。数日おきに当院で
の治療を続けたところ、十回終
了時点でかなり痛みは緩和され、
徐々に肩関節の可動範囲は拡大
してきている。
(TEL 〇四四一三三七二二三)

自動光線治療器ははつらつさん
で、照射時間は5分刻みで60
分まで設定でき、時間に合わ
せてジョイントでできるサナモ
アカーボンをつないでおけば、
自動的にカーボンを送り安定
した光線を放射します。
なおはつらつさんご使用の
際には、安全性を保ち、事故
を未然に防ぐため、ジョイン
トカーボン以外のカーボンは
絶対に使用しないで下さい。
使用上の注意は、「はつらつさ
ん取扱説明書」をご覧ください。

サナモア光線療法 体験記

サナモアを毎日の

日課としています

東京都 佐〇フ〇様
93歳になります。いつもサナモアを愛用させていただきありがとございます。私は以前から骨粗鬆症を患い、腰痛が悩みの種で今までに注射を20本くらいうちましたが一向に痛みが改善せず困っていました。一人暮らしのため外出もしなければならず、安静もままならない日々でしたが、今では毎日光線を照射して痛みも軽くなり何とか日常生活をおくっています。また、右眼は以前白内障の手術を受けましたが、左眼はサナモアを知りましたので光線を欠かさずに照射したところとても良く見えるようになりました。少々の身

体の不調なら光線を照射して治しております。毎日光線をかけてから、ぬるめのお風呂に入ることを入課としており、寝込むこともなく毎日暮らしにけるのも光線のおかげと心より感謝し、サナモア様様と思っております。本当に心より厚く御礼申し上げます。

愛犬ラッシー君の サナモア体験記

東京都 三〇登〇子様

もうすぐ七歳になる私の愛犬ラッシー君のサナモア光線体験記を報告します。最初は二歳の時で、けいれん発作をおこしサナモアに助けられました。それ以来、病気とは無縁で、元氣者ラッシー君はお友達からも好かれ、意気揚揚とかわいい鼻をつんとしてハンサムな笑顔を振りまいていました。ところが昨年の二月、ラッシー君が突然血尿を出したため、びっくりして病院に行き検査を受けたところ、腎臓に小さな石が見つかりました。先生から場合によっては手術が必要になるかもしれないと説明を受けたため、毎日光線照射を続け再検査に行ったら、石

は消失しておりほっと一安心でした。ところがそれもつかの間、今度は押入れから落ちて尾骨を強打し、排便にも苦労する次第で、うーんと鳴くばかりです。困り果てた私は、ADカーボンを使用し毎日一時間ずつ三日間照射を続けたところ、これまた驚くほどの回復を見せました。そんなラッシー君の光線体験ですが、今は結膜炎に対して治療中で、この頃では主人よりサナモアを使う時間が長く照射してもらいたいと言ってはサナモアをたたきます。本当にサナモアがなかったらと思うとぞーとします。私とラッシー君でこれからも大切にサナモアを使っていきたいと思っています。

サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものはありません。ついては体験記をお送りくださいますよう、お願いいたします。
なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。



サナモア光線協会
趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行
二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会TEL(03) 三七九三―五二八二
三七二一―五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)